

【標茶町教育委員会】

校務DX計画

本町における校務DX計画については、GIGAスクール構想にて整備されたGoogleWorkspaceを活用し教職員が情報共有をすることで、クラウドツールの便利さを実感し校務の効率化が進んでいる。

さらなるコミュニケーションの迅速化や活性化、校務の負担軽減を図るため、また文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言やGIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、次世代の校務DX化に向けて、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するために、以下に掲げる事項を重点的に推進する。

○ 校務系・学習系ネットワークの統合

教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするため、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校・町情報管理担当・関係業者と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系・学習系ネットワークへ接続可能な環境の整備に向けた調査研究を着実に進める。

○ クラウドツールの未活用の解消

教員と児童生徒間の各種連絡については、汎用クラウドツール(オンラインストレージ等)を活用し、時間割、テスト範囲等の共有をデジタル化する。

また、宿題(学期中、長期休暇中)の実施・採点は、デジタルドリル教材等を積極的に活用しデジタル化を進める。

さらには、学校内の連絡においても、クラウド化を進め、資料の配布・保存や様々な情報共有に汎用クラウドツール(チャット、グループウェア等)を活用し、コミュニケーションの迅速化や活性化、校務の負担軽減を図る。

○ 不必要な手入力作業の一掃

現在、校務業務では多くの手入力作業が存在する。不合理な手入力作業を洗い出し、改善策を通じて教職員の負担軽減を図る。

○ FAX・押印の見直しとペーパーレス化の推進

FAXと押印の見直しは、校務の効率化、ペーパーレス化、教育職員の働き方改革を達成するために重要な要素であることから、メールやクラウドサービスの活用を進めるとともに、各関係機関等に対しても慣行の見直しを依頼するなど、継続的な働きかけを行う。

○ 校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討を実施

グループウェア・保護者連絡・備品管理などの汎用クラウドツールと連携し、教職員間での会議資料等のペーパーレス化、教職員等の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする環境を構築するため、文部科学省「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況を注視しつつ、教職員と学校現場における課題・ニーズ等の情報共有を図るなど、次世代の校務デジタル化に向けた校務系ネットワーク・システム等の現状分析や望ましい校務の在り方に関する検討を行い、パブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムの早期クラウド化を目指す。